



やまざき くにひろ
山崎 邦廣 議員

問 新庁舎周辺道路の整備充実は

答 新庁舎建設と連携し機能向上

道路の機能充実

議員 新庁舎地域の道路整備計画について伺う。

町長 町道役場線は、旧遠藤邸を撤去したスペースを活用して通常の車道幅員より50センチほど広い片側3.5メートル。これは、役場新庁舎の建設工事に伴う関係車両の増加を見越し仮設の状況としているもので工事終了後、幅員は現況と同等の構造で歩行空間の構造は、今後詳細を検討していく。そのほか路面ペイント、標識の設置や、複合施設として消防分署が併設されることから、緊急車両の自動表示灯の設置、旧遠藤邸跡地の空間や蔵を利用した「ポケットパーク」整備などが想定されるが、町道役場線の再整備と併せ附帯的な設備として検討していく。国道と町道茶屋場田子



道路幅が広がった町道役場線

線の接続箇所には、役場新庁舎の案内標識など「葛巻らしさ」をアピールできるデザインを採用しつつ、道路全体の機能が高められるよう検討を進めていく。

小規模農業の振興

議員 農業振興での小規模農業の経営推進について伺う。

町長 平成27年の「農業センサス」では、本町農家戸数は農業経営体数が

443戸、うち耕作面積が30アール以上で販売金額が50万円を超える販売農家数は427戸、そのうち専業農家は168戸であり、作付け・飼養別では乳用牛164戸、肉用牛122戸、野菜92戸、経営地別では1畝未満が159戸に対し、10畝以上が82戸となっており酪農中心の畜産農家に農地集積が進む一方で、経営規模の小さい農家も多く存在している。

国・県では、認定農業者や人・農地プランで中心的経営体に位置づけられる農業経営体に農地を集積し、補助事業を適用する仕組みで、小規模農家は農業機械等の導入事業の「いわて地域農業マスタープラン実践支援事業」などでの採択は難しい状況。

このため、町単独で「葉タバコ栽培品質向上対策事業」や「畜産労働力負担軽減対策事業」、町農業再生協議会の「葛巻型農業構築支援事業」を創設し、小規模農家の支援を行っている。

今後、小規模農家や高齢者でも生きがいを持って農業が続けられるよう様々な支援を検討していくとともに、離農した場合の農地集積など、地域全体の農業生産力が低下しないよう取り組んでいく。



やまざき みるみ
山岸はる美 議員

問 ツキノワグマの食害対策は

答 原則は電気柵での追い払い

有害鳥獣被害

議員 有害な鳥獣による農作物の被害状況とその対応は。

町長 最も大きい被害はツキノワグマで、デントコーン畑などの被害が多く、年間40件から50件ほどの情報が寄せられている。被害や目撃情報があつた際は、職員による



熊の食害に遭ったデントコーン畑

現状把握、くずまきテレビや屋外告知放送による情報提供、広報くずまきやチラシで注意喚起を行っている。

県では、ツキノワグマの地域個体群の安定的な維持を図る観点から原則「追い払い」の方法によることから、町では電気柵の導入費用の助成を創設し、今年度は7件、27

万円を交付している。

狩猟資格の助成

議員 狩猟資格の取得に對して助成の考えは。

町長 猟友会の会員は現在9人。将来的に有害鳥獣の駆除が困難にならないように、資格取得に必要な費用助成など他の事例を参考に検討する。

医師等の確保

議員 岩手の医師充足度は全国最下位だが、医師と看護師の確保策と、医療クランク（※）配置による医師の負担軽減を図る考えは。

町長 医師確保は、医師住宅などの受け入れ環境の整備に努め、今後も県医療局、岩手医大、県立病院などに派遣要請を続けていく。

看護師、薬剤師、臨床検査技師などは、職員採用の募集を実施しても応

募がない厳しい状況だが、町の看護職員等養成修学資金貸付金制度の周知・活用で確保に努める。

医療クランクは、現在2人配置している。医師の勤務環境の改善と医療の質の向上につながるよう、今後さらに検討する。

（※）医療クランク
診断書作成など医師の事務作業を補助するスタッフ。

主食の再開見直し

議員 学校給食の主食再開の見直しは。

町長 学校給食の主食である「米飯」と「パン」は、平成29年に提供業者が倒産して以来、実施できていない。今年度、保護者の経済的な負担軽減のため、一年分の町産米を児童生徒の家庭に配布した。主食の持参は負担になっていると認識しており、早い時期に解決できるよう協議・検討する。